

国際交流の重要性

－外国人生徒が与える効果について－

2025 年 1 月 14 日

3 年〇組〇番 〇〇〇〇

3 年〇組〇番 〇〇〇〇

3 年〇組〇番 〇〇〇〇

I 要旨

「外国人生徒がいる学校といない学校ではどのような違いが生じるのか」という問いを立てて探求した。外国人生徒と関わった日本人の心境の変化について、中田敏夫・村松基成(2006)によると、身の回りに外国人が増加したと感じる人は全体の51%を占め、また、教育現場においては物事を伝えたい意欲、積極的に協力する意欲が増加することが分かった。

そこで、「中学生の時に外国人生徒がいた人とそうでない人では、高校生になってどのような違いが生じるのか」という問いを立てた。この問いに対してアンケートを実施したが、結果は中学生の時に外国人生徒がいたとしても、深く関わらなければ自身に変化を感じないことが分かった。このことから、「外国人生徒との親密度」と「日本人生徒の心境」は比例するのではないかと考えた。

そこで、新たに「高校で外国人生徒と深く関わったことがある人とそうでない人ではどのような違いが生じるのか」という問いを立てた。外国人生徒との親密度と自身を感じる変化の関わりについて調査するため、「高校での外国人生徒との親密度」をアンケート項目に加え、自身を感じる変化について再度調査を行った。この結果、外国人生徒と同じグループで行動している生徒ほど、コミュニケーション能力について変化を感じる人が多いことが分かった。

2つのアンケート調査から出した私たちの問いに対する答えは、「外国人生徒がいるだけでは、日本人生徒に大きな変化は起きない」だ。そのため、日本人生徒自身が積極的に外国人生徒と関わりに行くことが大切だろう。

II 調査①

1 研究の目的

この研究を始めるきっかけは、岩倉総合高等学校に複数の外国人生徒が在籍していることである。外国人生徒が在籍していることで、一般生徒にもたらす影響はあるのか、また、国際交流が行われているのかを調査していく。

中田敏夫・村松基成(2006)によると、身の回りに外国人が増加したと感じる人は全体の51%を占め、特に、教育現場では外国人生徒がいることにより、「多様な価値観が身につく」「国際的視野が広がる」といった変化を感じている人が多いことが分かった。

まず私達は、外国人生徒と関わる期間の違いにより変化が生じると考えた。そのため、外国人生徒が在籍している岩倉総合高等学校中学生の時に外国人生徒がいた生徒といなかった生徒ではどのような違いが生じるのか研究することにした。

2 研究の方法

(1) 調査方法

岩倉総合高等学校の三年生133名を対象に、「中学の時に外国人生徒がいた人とそうでない人では、高校生になってどのような違いが生じるのか」についてアンケート調査を行った。

アンケートの内容は以下の通りである。

質問 1 中学生の時に外国人生徒はいましたか。

「はい」 → 質問 2 外国人生徒と同じクラスになったことがありますか。

「いいえ」 → 質問 3 外国人生徒と同じクラスになる前となった後で自身が感じた変化について教えてください。

質問 4 高校生になってから外国人生徒と同じクラスになったことがありますか。

質問 5 岩総には、外国人生徒がいますが自身にどのような変化がありましたか。

(2) 結果

中学生の時から外国人生徒がいる生徒は、コミュニケーション能力が高まった人が 13%、日本以外の文化に興味を持つようになった人が 29%、特に変化を感じていない人が 58% となった。また、高校生の時から外国人生徒がいる生徒は、コミュニケーション能力が高まった人が 13%、日本以外の文化に興味を持つようになった人が 29%、特に変化を感じていない人が 58% となった。[図 1]

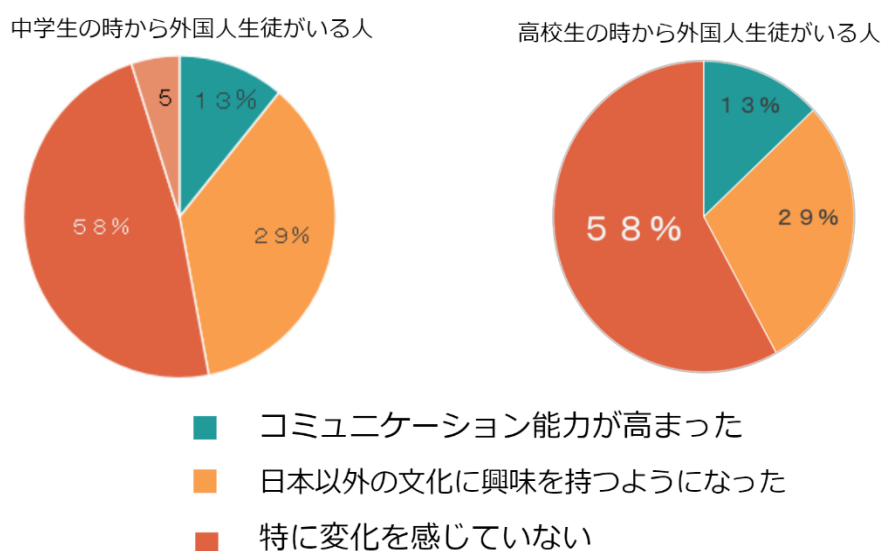


図 1 外国人生徒が中学生の時にいた人と高校生の時にいた人の違い

3 考察

アンケートの結果を見ると、中学生の時から外国人生徒と一緒にだった人と高校生の時から外国人生徒と一緒にだった人の違いはほとんどなかった。このことから、外国人生徒と一緒に過ごす期間の長さはあまり関係ないことが分かった。

この結果から、「外国人生徒との親密度」が上があれば、自身が感じる変化も上がるのではないかと考えた。

そこで新たに、「高校で外国人生徒と深く関わったことがある人と深く関わったことがない人ではどのような違いが生じるか」という問いを立て、アンケート調査を行った。

Ⅲ 調査②

1 研究の目的

外国人生徒との親密度が上がれば、自身が感じる変化も上がるのではないかと考え、その違いについて高校生の場合に絞り、その変化について調査を行う。

2 研究の方法

(1) 調査方法

岩倉総合高等学校の二年生 172 名、三年生 79 名、計 251 名を対象に、「外国人生徒と関わった後の自身の変化」についてアンケート調査を行った。アンケートの内容は次のとおりである。

質問 1 外国人生徒との親密度を教えてください。

- ☐ 同じグループで行動している
- ☐ 何度か喋ったことがある
- ☐ 関わったことがない

質問 2 外国人生徒がいることで、自身に感じた変化を教えてください。

- ☐ コミュニケーション能力が高まった
- ☐ 日本以外の文化に興味を持つようになった
- ☐ 特に変化を感じていない

質問 3 国際交流について、何を行えば関心が高まると思いますか。

- ☐ 洋楽や k-pop など他国の歌を聴く
- ☐ 他国の料理を食べる
- ☐ 簡単な挨拶だけでも覚えたり、翻訳アプリの使用などで交流しやすい環境を作る
- ☐ 他国の遊びを学校やイベントなどで実際に体験する

(2) 結果

質問 1 「外国人生徒との親密度を教えてください。」の回答は次の通りである。「同じグループで行動している」と回答した人は 27 名、「何度か喋ったことがある」と回答した人は 140 名、「関わったことがない」と回答した人は 84 人であった。

質問 2 「外国人生徒がいることで、自身に感じた変化を教えてください。」の回答は次の通りである。質問 1 で「同じグループで行動している」と回答した人 27 名のうち、コミュニケーション能力が高まった人が 9 名、日本以外の文化について興味を持つようになった人が 8 名、特に変化を感じていない人が 10 名となった。質問 1 で「何度か喋ったことがある」と回答した人 140 名のうち、コミュニケーション能力が高まった人が 17 名、日本以外の文化について興味を持つようになった人が 23 名、特に変化を感じていない人が 100 名となった。質問 1 で「関わったことがない」と回答した人 84 名のうち、コミュニケーション能力が高まった

人が0名、日本以外の文化について興味を持つようになった人が9名、特に変化を感じていない人が75名となった。[図2]

また、質問3「国際交流について、何を行えば関心が高まると思いますか。」の回答は次の通りである。「洋楽やk-popなど他国の歌を聴く」と答えた人が49名、「外国人の方が経営している飲食店に行き、他国の料理を食べる」と答えた人が24名、「簡単な挨拶だけでも覚えたり、翻訳アプリの使用などで交流しやすい環境を作る」と答えた人が61名、「他国の遊びを学校やイベントなどで実際に体験する」と答えた人が84名といった結果となった。

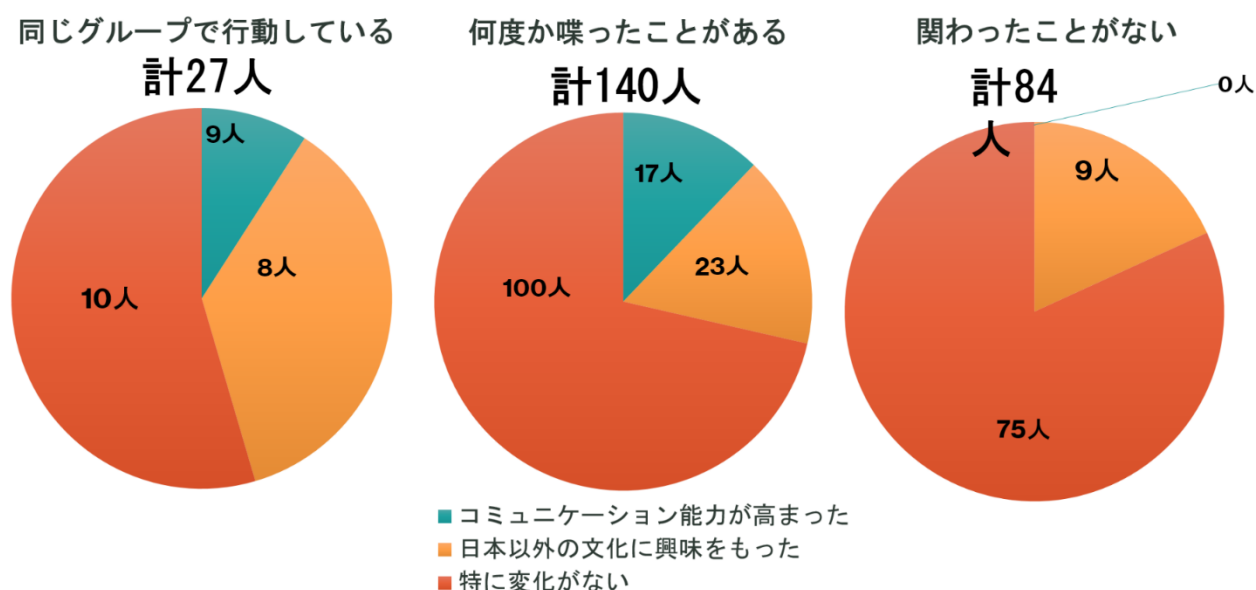


図2 質問1、質問2の回答

(3) 考察

質問1で「何度か喋ったことがある」と答えた人よりも、「同じグループで行動している」と答えた人のほうが、「コミュニケーション能力が高まった」、「日本以外の文化に興味をもった」と答えた人の割合が高かった。このことから、外国人生徒との親密度が高いほうが、自身に起こる変化が大きいことがわかる。

また、親密度の違いにかかわらず、関わりが深くても浅くてもコミュニケーション能力が高まったと感じた生徒の割合が一番低く、言語能力に関しては特に変化が見られないと分かった。しかし、外国人生徒と深い関わりを持っている人はコミュニケーション能力より「日本以外の文化について興味を持つようになった」と回答する人が多く、外国人生徒は日本人生徒に各国の生活や文化に興味を持たせる、世界の視野を広げさせる効果があるのではないかと考えた。また、「国際交流について、何を行えば関心が高まると思うか」という質問で、他国の遊びを学校やイベントなどで実際に体験すると答えた人が一番多いことから、外国の歌を聴くことや他国の料理を食べるといった間接的に関わることよりも実際に体験するといった直接的なものの方が日本人生徒の関心が高まると思った。

IV 結論

「外国人生徒がいるだけでは、日本人生徒に大きな変化は起きない」というのが私たちの出した問いに対する答えだ。岩倉総合高等学校に在籍している外国人生徒と関わりを持つと、相手の国の文化や相手の国の知らなかった事を知る良い機会となり、自分自身の視野が広がる可能性も十分にあり得る。同じクラスにいただけで深く関わらずに学校生活を送るのは、もったいない。同じクラスだけでなく、他クラスの外国人生徒とも積極的に関わる事が大切であるといえる。

V 感想

二年生を対象にしたアンケート調査を紙で行ったことで、より多く正確な調査を行えたことは凄く良かった。今回の探究では外国人生徒との関係性に注目したが、関わりの深さだけでなく、その人自身の国際交流への関心の度合いや、関心が低い人たちに対してどうアプローチしていくべきなのかを知ることも重要だと感じた。

学校は比較的狭いコミュニティであるため外国人生徒と親密に関わることができ、自分自身の視野を広げたり、国際交流の大切さを学べる良い場所である。

VI 参考文献

中田・村松（2006）「外国人児童生徒に対する日本人学生の意識調査からみえる外国人・日本人児童生徒の共就学の可能性」CiNii Research.<<https://cir.nii.ac.jp/crid/1050282813413301632>>